

横芝の碑

(その一〇三)

多古町に建っている

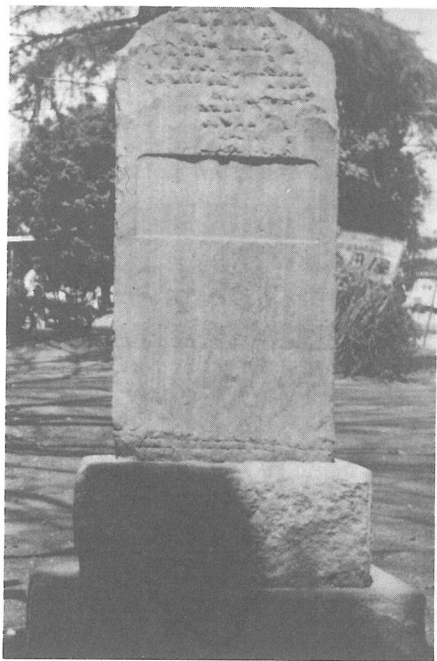
横芝町と多古町友好の碑

農業協同組合は、昭和二十三年に、当時の農業会から資産を引き継いで、新しい組織として発足しました。

この前身時代の横芝町農業会に、土屋忠治という役員(幹事)さんがおり、この人の顕彰碑が、多古町大字十余三(とよみ)字赤池という所に建っています。

一年ぐらいい前に、大総の方からこの話をお聞きして、一度探しに行ったのですが、見付けることができません、そのままになっていました。ところが、佐原神保家の墓碑(本紙二百号で紹介)を取材に行った時に、近道を選んだつもりが道に迷い、ふと休んだ公園のような所の一隅に、二基の碑が建っていました。その中の一基が奇しくも、かねてお聞きしていた土屋忠治さんの顕彰碑でした。

碑の高さは二m五〇cmぐらいい、表には「土屋忠治君ノ碑、君ハ山武郡大総村ノ人、曾ツテ香取郡久賀村高津原ニ住ス、因ツテ普沢翁



ト親好アリ、君多年地方民ノ希望スル多古、神崎間ノ県道敷設ニ対シ深ク共鳴シ、翁ト共ニ県会議員佐藤喜和蔵ニ諮リ県ニ陳情シ、其ノ諒解ヲ得会シ、民政内閣成ルヤ同派ノ代議士、県会議員以テ好機ト為シ、翁等計画セル赤池線ヲ変シ、五辻、飯笹、染井ヲ経テ多古町ニ達スルノ案ヲ立テ、沮止百方、加之久賀村某某等之ニ賛シ、為ニ一大争奪戦ト化ス、然ルニ民政内閣倒レ、政友内閣現ル、本県ニ福

永知事来任シ、翁亦貴族院議員ニ膺リ知事ノ視察ヲ請ヒ、断然赤池線ニ決定ス、サレド之ガ実施ニ当リ、猶強硬ナル反対アリテ紛糾錯雑、特ニ多古町染井地先ハ頑然土地買収ヲ拒ミタルモ、君怒ラス驚カス、鞠躬尽瘁ト併セテ沿道民ノ協力ニヨリ遂ニ完成ヲ見ルニ至レリ、其功洵ニ偉矣、昭和二十四年九月十八日歿ス、享年六十三、君翁ヲ見ルコト師父ノ如シ、翁ノ難スルトコロ奪ツテ之ニ当リ水火猶避ケス、蓋シ相知ノ深キナリ、後ノコノ碑ヲ読ム者其観感スル所アレヨヤ、昭和二十六年三月柳斎塚本 省選 桐陰 普沢重雄、と刻まれています。

(皇族、華族、多額納税者の中から選出)の普沢重雄先生(普沢重矩多古町長の祖父)がありました。普沢先生は、多古から赤池を経て佐原方面に至る道路が、松尾・大総方面からの人馬の往来や、沿道住民の利用も多いのには、県道に認定されず、雨上がりには、泥濘膝を没す、という有様、しかも、その修理は道普請といわれる沿道住民の勤労作業に頼っていることを憂いて、長ずるに従い、県道認定についての具申などを各方面に行っていました。が、そのうちに、地方民の公正な利益取得は政治力による他はない」と考えられるや、鋭意政界に身を投ぜられ、県会議員、衆議院議員を歴任、さらに貴族院議員として政界に活躍されました。その功績は、正四位勲二等という栄誉によっても顕著であります。

政治家としての多忙な日常にも、赤池線の県道昇格推進に尽力される先生の姿を、じっと見つめておられたのが土屋忠治さんでした。土屋さんは、次第に先生の人格に引き寄せられ、進んでその腕の下に入って先生の目的遂行に力を尽くし、この大業完成に功績を残したというものです。写真は、その碑で、裏面には、発起人十五名の名前が書かれた横芝町と多古町友好の碑

町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿



▲発起人十五名の名前が書かれた横芝町と多古町友好の碑